

大学院学生の保育園利用に関するご理解のお願い

この度は、本学大学院学生の保育園利用について申請の機会をお与えいただきありがとうございます。ごぞいます。

大学院学生の就学については、就労と比べて時間的制約が短く、保育に欠ける状態ではないと判断されることが一般的に多いように見受けられることから、実際の大学院学生の就学状況についてご説明させていただきたいと存じます。

大学院学生の専門分野により異なりますが、当研究科の大学院学生は例えば次の通りです。

- ・ 履修登録した授業への出席、また、ゼミ形式の授業が多いことから事前の発表準備
- ・ 学内でのみ利用できる専門雑誌や論文、資料、機器、実験施設等を利用した研究や論文執筆
- ・ 指導教員が担当する授業や研究会、輪講、会議等への出席および補助（事務作業含む）
（RA（リサーチアシスタント：研究補助職）、TA（ティーチングアシスタント：授業補助職）としての業務による補助を含む）
- ・ 主に指導教員が担当する研究プロジェクトにおける研究および事務作業
- ・ 論文執筆のための指導教員とディスカッション等による正規の授業以外での密なコミュニケーション
- ・ 国内外の学会での発表や企業・研究所等における研究に伴う出張
- ・ 論文執筆に必要な資料やデータ収集のための国内外でのフィールドワーク 等

このように、自らの研究テーマを追究するための多くの研究活動に加え、研究室の運営に重要な役割を果たしているのが大学院学生です。今後、研究者等の高度な専門知識を有する職業を志す者には、指導教員の補助を通して教育者として必要な経験を積みながら、在学中に一定の研究成果を出すことが求められ、そのプレッシャーを乗り越えて行くための強い精神力が必要となっております。

前述のように時間的にも精神的にも厳しい学生生活の中で、保育園に入れるかどうか分からない中、出産・育児を躊躇う大学院学生が多くいます。こういった状況を目の当たりにし、勉学と育児を両立できる体制を整えていく必要があると感じております。

東京大学では、そういった大学院学生の支援も目的としてキャンパス内に保育園を設置しておりますが、定員が少数であり、残念ながらすべての大学院学生の入園希望には応じることができないのが現状です。

申請者である大学院学生は、困難もあることを承知の上で両立の道を選びました。その決意を頼もしく感じ、応援したいと心から願い、ここに大学院学生の就学についてご説明させていただきました。

ご関係の皆様には、研究の場において未来を切り拓いていこうとする若者へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和4年11月1日

東京大学大学院新領域創成科学研究科長